

椿喜紋の目的 増田ゆかり作

昨年の今頃、「椿喜会にも、名刺があったらいいのに」という言葉がきっかけでした。来年10周年を迎えるにあたり、記念のグッズや名刺に使っていただければと思います。案を披露した次第です。最終的に、諸事情が許せば半纏などに入れることが出来るのかなと思います。

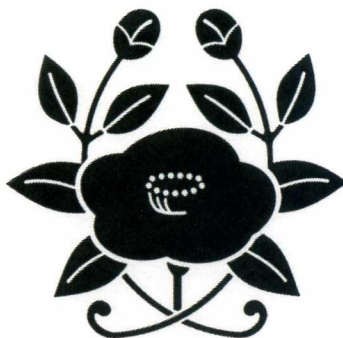
まずは、小物からこれを椿喜会の印（しるし）です。というものを内外の方に広く知っていただけたら、又、知るキッカケになればと思います。

今回の椿喜紋の成り立ち

今回、四つの紋を提案させていただきました。見てお気づきの通り、家紋を元に制作しております。「うちの家紋は左三つ巴なのよ」と言えば、全
国で同じ紋が思い浮かぶのは、非常に便利で画期的、かつ浸透性も良いものではないでしょうか。
家紋には、本や資料を見る限り、現在の人が考える椿の形をしたものはありません。
ならば、これをもとに椿喜紋を作れば独創性も追及できるのではないのでしょうか。
今回の四つの紋が元紋があり、便宜上名前を椿喜に換え表記しております。

1. 変り利休椿喜

家紋の中でも「利休紋」と呼ばれるものは、和風でありながら洋風の用途にも対応できるデザイン性があると思います。



2. 変り椿喜枝丸

寄席文字は、人が隙間なく入るようにと文字をぎゅうぎゅうに詰めて書くそうです。そんなところから、葉もたくさん花もいっぱいまで開いた紋です。会員が快適に、会がますます成長していけたらと思います、制作しました。



3. 変り枝椿喜

一枝の椿は、花と蕾を1つずつ持っています。椿にはひとつの「潔さ」が似合うと思います。花には、花卉があるのですが、それは「e」の文字に似せてあります。これは、今私達が「eメール」などの繋がりがああることを表現しました。



4. 椿喜枝丸

この案では、葉と花のバランスを追求しました。大きく扱っても小さく扱っても見劣りしない紋だと思います。

